平成三十一年度　入学試験問題　国語

Ⅰ　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「この戦いが終わったら、村に戻って結婚するんだ」
こんな発言をした兵士は二度と仲間の元に帰還しない。

「化物なんているわけがねえ」
このように軽口を叩いた男が一人で行動し、ゾンビの[a]サイショの犠牲者となる。

後に起こる特定の展開を①フラグと呼び、それが起こる条件が整うことを「フラグが立つ」と呼ぶらしい。フラグは予想展開によって、「死亡フラグ」や「恋愛フラグ」など様々なパターンが存在する。映画やアニメなどでよく見るこのようなシーンは「フラグが立った」典型的な例である。もちろん発言だけではフラグが立たないかもしれない。しかしそこが出撃前の輸送船の中であったり、男の性格がお調子者であった場合、フラグが立つ可能性は一気に跳ね上がる。普段の[b]レンシュウではなく、決勝戦の前日だからこそ、チームのエースはケガをするのである。このように「発言」と「時と場合」がそろったときにⅠ往々にしてフラグが立つ。また、フィクションの世界では、この「発言」が「オレ様の究極奥義を受けてみよ！」や「明日の決勝戦、絶対に勝とう！」などのように自信に満ちていたり、前向きな発言であるほど、逆方向にベクトルが働くことが多く見受けられる。

さて、現実に目を向けるとどうだろうか。現実世界にフラグは存在するのだろうか。

多くの高校生は約束された結果なんて存在しないと考えるかもしれない。慎重な生徒は、百パーセントの未来なんてないと[c]慎ましく考える。だから努力をしたり、夢を抱くことを恐れる。［A］それが無駄になるかもしれないからだ。しかしフラグは確実に存在する。それは「目標への行動をしない」ときに立つ「失敗フラグ」である。行動しないと何事も絶対に成功しない。だから行動を起こすことが失敗フラグを回避する唯一の方法だ。［B］行動のはじめの一歩を踏み出すことは難しい上に、それを継続することはさらに難しいかもしれない。しかし成功を求めるとしたら、その困難な道の先にしかフラグは立つはずがない。そして、その困難な道のりを助けるものが発言なのだ。発言も行動の一つであるが、自分で発した言葉はその後の具体的な行動をとる上での大きな力になる。

世界各国の高校生に将来の夢の[d]有無を聞いた調査がある。夢があると答えた生徒はほとんどの国で九割近くに達したのに対して、わが国では七割に満たなかった。実に三割の生徒が、自分には夢がないと答えたことになる。［C］この数値をそのまま受け取って良いのだろうか。虚構の世界の逆ベクトルを恐れるように、「自分には夢がある」と認め、口にすることを多くの生徒が恐れているのではないか。「②成功フラグ」は信じないが、「失敗フラグ」は存在するとⅡ暗に思っているのが日本の高校生なのだ。

太古より日本人は言葉を大切にしてきた。言葉には魂が[e]宿るとして、言霊という概念を信じてきた。言葉には人を傷つけ、縛りつける、「呪い」の力がある。しかしそれと同時に人を[f]癒し、未来を[g]拓く、「［甲］い」の力もある。この二つは対義語である。二つの字形が似ているのは偶然ではない。多くの人は、他者から[h]ハゲまされ、慰められ、認められることを待っている。だがその力は他者から与えられるものばかりではない。自分の内から発する言葉にも大きな力があるのである。しかし日本人は言葉の力の両面を知っているからこそ、軽はずみな発言を戒め、［乙］実行よりも［丙］実行を美徳としてきた。ＳＮＳの[i]フキュウに伴って、軽率な言動から炎上する例もⅢ枚挙にいとまがない。多くの日本人は今後、より固くその口を閉ざす可能性もある。しかしそれと同時に進むグローバル社会の中において、求められる力は表現力と主体性である。まずは自分の思いを言葉で表現しよう。その言葉に力をもらい、次の行動を起こしていこう。[j]ドウドウと胸を張る他国の若者に負けないためにも、フラグを恐れず、フラグを信じて夢を語ってもらいたい。

（『フラグを立てろ』本校教員による文章）

問一　二重傍線部a・b・h・i・jのカタカナを漢字に直しなさい。
問二　二重傍線部c・d・e・f・gの漢字の読みをひらがなで答えなさい。
問三　傍線部①「フラグ」とあるが、これを他の言葉で言い換えたものを本文中から七字で抜き出しなさい。
問四　波線部Ⅰから Ⅲの語句と同じものを指す言葉として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ　往々にして　　ア　ときどき　　イ　必ず　　ウ　たいてい　　エ　まれに
Ⅱ　暗に　　ア　ひそかに　　イ　消極的に　　ウ　自分を卑下して　　エ　邪悪に
Ⅲ　枚挙にいとまがない　　ア　数えきれない　　イ　数える暇がない　　ウ　数えたくない　　エ　数えていない

問五　空欄［A］から［C］にあてはまる言葉として適切なものを次のア～オよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。
　ア　しかし　　イ　そして　　ウ　確かに　　エ　なぜなら　　オ　つまり
問六　空欄［甲］に入る言葉を前後の文を参考にして考え、漢字一字で答えなさい。
問七　空欄［乙］・［丙］に入るそれぞれの漢字二字を前後の文を参考にして考え、四字熟語を完成させなさい。

問八　傍線部②「成功フラグ」とあるが、筆者はそれを「立てる」ために必要なことは何と考えているか。「継続」・「言葉」の二語を必ず用いて、二十五字以内で答えなさい。なお句読点は一字として含みます。

問九　本文の内容として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア　言葉が力を持つ日本においては、誰の言葉に対しても、意欲的に従うことが大切である。
イ　世界と競争していく現代では、積極的に自分の目標を口に出し、行動すべきである。
ウ　情報化社会の中においては、不用意な発言をせず、地道な努力を続けるべきである。
エ　現実世界においては、夢の有無は関係なく、時流に合わせる柔軟性が必要である。

Ⅱ　次の文章は、『土佐日記』からの出典である。本文は土佐から京へと帰る道中を日記形式でまとめたものである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

十日。Ⅰけふは、この〈※1〉奈半の泊にとまりぬ。十一日。あかつきに船を出だして、〈※2〉室津を追ふ。人みなまだ寝たれば、海のⅡありやうも見えず。ただ月を見てぞ、西東をば知りAける。かかるⅢあひだに、みな夜あけて、手あらひ、例のことどもして、昼になりぬ。〈※3〉いまし、羽根といふところに来ぬ。わかき童、このところの名を聞きて、「羽根といふところは、B鳥の羽根のやうにやある。」といふ。まだをさなき童のことなれば、人々わらふときに、〈※4〉ありける女童なん、この歌をよめる。

まことにて　名に聞くところ　羽根ならば　［　C　］に〈※5〉都へもがな

とぞいへる。男も女もいかで、Dとく京へもがなとおもふ心あれば、この歌よしとにはあらねど、げにとおもひて、人々E忘れず。

注〈※1〉奈半の泊…奈半の港。現在の高知県奈半利町。　〈※2〉室津を追ふ…室津へ向かう。室津は高知県室戸市の港。
〈※3〉いまし…ちょうど今　〈※4〉ありける女童…例の女の子。歌を詠むのが好きな女の子が同船していた。
〈※5〉都へもがな…都へ帰りたいものだ

問一　二重傍線部ⅠからⅢの語句を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二　傍線部A「ける」の活用形として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア　連用形　　イ　終止形　　ウ　連体形　　エ　已然形

問三　傍線部B「鳥の羽根のやうにやある」の解釈として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア　鳥の羽根のようであるなあ　　イ　鳥の羽根のようなのか
ウ　鳥の羽根のようであって欲しい　　エ　鳥の羽根のようには見えない

問四　空欄［　C　］に入る語として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア　歩むがごとく　　イ　飛ぶがごとく　　ウ　咲くがごとく　　エ　漕ぐがごとく

問五　傍線部D「とく」の意味として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア　やがて　　イ　なによりも　　ウ　本当に　　エ　早く

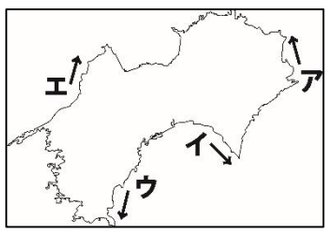
問六　傍線部E「忘れず」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア　笑ってしまうほど楽しい歌だったから　　イ　技術の優れた歌だったから
ウ　なるほどと共感できる歌だったから　　エ　小さな子どもが詠んだ歌だったから

問七　この文章で描かれている旅の航路として適切なものを下図中のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

問八　この作品の出典となっている『土佐日記』の作者を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア　藤原定家　　イ　源実朝　　ウ　兼好法師　　エ　紀貫之



Ⅲ　次のことわざ・慣用句・故事成語の問いに答えなさい。

問一　次の①～⑤の空欄の中に漢字一字を補い、ことわざ・慣用句・故事成語を完成させなさい。ただし空欄には動物に関する語が入ります。

①　飼い【　　】に手を噛まれる　（裏切られること）　　②　【　　】の尾をふむ　（たいへん危険なこと）
③　【　　】の耳に念仏　（いくら言っても何の効果もないこと）　　④　【　　】の涙　（ほんの少しのこと）
⑤　【　　】も木から落ちる　（上手な人でも時には失敗すること）

問二　次の①～⑤の意味を持つ語句を、次のア～コよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

①　旧友　　②　露呈　　③　不信　　④　意外　　⑤　勝手

ア　人間万事塞翁が馬　　イ　疑心暗鬼　　ウ　寝耳に水　　エ　猫に小判　　オ　我田引水
カ　馬脚をあらわす　　キ　竹馬の友　　ク　明鏡止水　　ケ　犬に論語　　コ　袖触れ合うも多生の縁

平成三十一年度　入学試験解答用紙

国語

受験番号【　　】

名前【　　】

Ⅲ		Ⅱ								Ⅰ										
二	一	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八		七	六	五	四	三	二		一	
①	①								Ⅰ				乙		A	Ⅰ		f	c	i	a
②	②												実								
													行								
									Ⅱ				丙		B	Ⅱ		g	d	j	b
③	③																				
													実								
④	④												行								
									Ⅲ						C	Ⅲ			e		h
⑤	⑤																				

平成三十一年度　入学試験　解答　国語

受験番号【　　】　名前【　　】

赤…2点　黒…3点　青…4点

Ⅰ

一 a	一 i	二 c	二 f	三 約	四 Ⅰ	五 A	六 祝	七 乙	八 自	八 続	九
最初	普及	つつ	いや	束	ウ	エ		有	分	し	イ
				さ				言	の	て	
				れ				実	思	い	
				た				行	い	く	
b	j	d	g	結	Ⅱ	B		丙	を	こ	
練習	堂堂／堂々	うむ	ひら	果	ア	ウ		不	言	と	
								言	葉	。	
								実	に		
								行	表		
h		e			Ⅲ	C			し		
励		やど			ア	ア			行		
									動		
									を		
									継		

Ⅱ

一	二	三	四	五	六	七	八
Ⅰ	ウ	イ	イ	エ	ウ	イ	エ
きょう							
Ⅱ							
ありよう							
Ⅲ							
あいだ							

Ⅲ

一	二
①	①
犬	キ
②	②
虎	カ
③	③
馬	イ
④	④
雀	ウ
⑤	⑤
猿	オ